

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105230
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ新屋敷
訪問調査日	平成20年2月15日
評価確定日	平成20年3月15日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105230
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ新屋敷
所在地	鹿児島市新屋敷4番1号 (電話) 099-222-0321
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年2月15日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年3月22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	9人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,520 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	74歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の中心部にあり、甲突川沿いの公園の散策や、近くのスーパーでの買い物にも行きやすく、市電やバスの停留所も近くにある為、交通の便もよいホームである。同一法人の医療機関やグループホームとの連携がよく取れており、入居者やご家族の信頼も厚い。外部研修への参加に加えて、ホーム内での勉強会も定期的に行われており、管理者を筆頭に熱意をもって認知症ケアに取り組んでいる様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画への入居者、ご家族の意見の反映については、計画作成の際の情報収集方法を工夫したり、担当制に変更して入居者と関わるようになったことで、本人やご家族の意向が介護計画に反映されやすくなっている。その他の課題についても、改善途上のもも含めて、管理者を先頭に前向きな取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員からの聞き取りを行い、管理者が取りまとめを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、毎月の状況報告や地域やご家族からの意見をくみ上げながら話し合いを行い、サービスの向上に繋がるように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に「新屋敷だより」を発行している。又、入居者個別にアルバムが作成されており、ご家族が面会に来られた際にはホームでの暮らしぶりがわかるように準備されている。ご家族等が意見、不満、苦情を表して運営に活かせるように、入居時に担当職員や市の相談窓口、第三者委員の紹介を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民生委員との情報交換や地域行事への参加、近所の公園の清掃活動等、地域の中に溶け込んで行けるように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内にグループホームが複数あり、全体に共通の理念がつくられている。		地域密着型サービスとして、その地域の中で、ホーム独自の理念づくりが期待される。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に理念を唱和している。又、実際のケアの中で起こった事と理念を、その都度照らし合わせ、管理者が説明することで職員が実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員との情報交換や地域行事への参加、近所の公園の清掃活動等、地域の中に溶け込んで行けるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の意見の聞き取りが行われた上で、管理者が取りまとめている。前回の外部評価については、改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、毎月の状況報告や地域やご家族からの意見をくみ上げながら話し合いを行い、サービスの向上に繋がるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に一度、介護相談員の受け入れを行っている。市との連携は、法人内のグループホームの取りまとめを行っている部署があり、その部署が一括して行っている為、具体的にホーム側で連携機会を持つことは無い。		法人内の全てのグループホームの情報がフィードバックされる体制にあり、ホーム単体で行政と連携を持つよりメリットが大きいとのことであるが、より地域に密着し、地域に根ざしたサービスを提供していく為に、行政と直接の連携を持つ取り組みや関係づくりに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「新屋敷だより」を発行している。又、入居者個別にアルバムが作成されており、ご家族が面会に来られた際には、ホームでの暮らしぶりがわかるように準備されている。	○	健康状態を含めた近況報告は、定期的及び個々にあわせて行われているが、金銭面の報告及び確認を定期的に行うようにしていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等が意見、不満、苦情を表して運営に活かせるように、入居時に担当職員や市の相談窓口、第三者委員の紹介を行っている。		ご家族の意見がより反映されやすくなるように、家族会の設置に向けてのサポートを行っていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職によるダメージが最小限に抑えられるように、日頃から行事の際の交流や、職員の交流を意図的に行うことで、ダメージが少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加やホーム内での勉強会が積極的に行われている。ホーム内での勉強会は、年間計画に沿いながら、職員が担当して定期的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入しており、協議会を通じて研修会や交流会に参加し、意見交換を行っている。その内容に基づいて、質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、なるべく見学に来ていただくようお願いしている。いきなりサービスが開始になった場合には、ご家族の訪問回数を増やすなどの工夫している。		本人やご家族が見学に来られない場合には、ホーム側から訪問するなどして、事前に少しでも関係づくりが行えるようにしていただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、梅干の作り方や蕎麦の打ち方、昔からのしきたり等、日常の様々な事の中から教えてもらい、共に学び過ごす関係づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族からの情報収集も行うが、日常の会話や表情の中から、希望や意向の把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制になっており、担当者と計画作成担当者が情報交換を行い介護計画が作成されている。作成された介護計画は一つのファイルにまとめられ、日常のケアの記録を行う際に確認されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、認定の有効期間にあわせた見直しが行われている。又、入居者の状態や希望等、必要に応じて見直しや新たな計画作成が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	フットケア等への参加や、ご家族が宿泊を希望された場合の対応等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、ご家族の希望を大切に決めていく。入居契約時に受診支援や緊急時等の対応について説明を行い、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や本人、ご家族の意向を踏まえ、ホームで行える対応について話し合いを行い方針を定めて対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や記録等の管理は十分に配慮されている。日々の関わりの中では、入居者の誇りや尊厳、プライバシーを損ねることの無いような対応がなされており、さらに徹底するための努力を重ねている。		入居者の誇りや尊厳、プライバシーを尊重した対応をさらに徹底し、サービスの質向上に向けて引き続き取り組まれることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間等、基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて、無理のない支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力の見極めを行いながら、準備、片付け等の役割を持っていただきながら、食事が楽しみなものになるように働きかけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な回数や曜日は定めているものの、入居者の希望や状況に合わせて、必要時にはいつでも入浴が行える体制がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力やしたい事を、普段の会話や表情から読み取りながら、楽しみごとや気晴らしが行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩や近くのスーパーに買い物に行ったり、時々ドライブに出かけたりなど、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束マニュアルや研修などを通じて、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中、玄関には鍵をかけないように取り組んでいる。		職員の人数が手薄な時間帯等に、玄関以外で目の届きにくい入り口を、安全確保の為に施錠する場合があるが、恒常的にならないよう配慮していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが作成されており、入居者も参加して避難訓練が行われている。又、運営推進会議では、民生委員等にも協力がもらえるよう働きかけが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは行われ、栄養バランスに関しては、年1回法人の管理栄養士に献立内容を見てもらい助言を受けている。	○	水分量に関しては、健康状態等に変化が見られた場合にはチェックがなされているが、その際の記録を整備していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮され、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物をはじめ、生活しやすい物、居心地よく過ごせる物を、本人やご家族に準備してもらっている。		